



近代日本の教育者

松本源太郎の生涯



松本源太郎肖像（『武生郷友会誌』より）

松本源太郎（まつもとげんたろう） 安政6年（1859）～大正14年（1925）

松本源太郎は、安政6年（1859）、越前府中（現越前市）本多家の最後の家老・松本晩翠（ばんすい）の長男として生まれた。府中の立教館に学ぶが、明治3年（1870）に起こった武生騒動に翻弄され、一時期、福井藩校・明新館に入学。そこで米国から招へいされたグリフィスの物理化学の実験を観覧する。その後武生に戻り、草創期の進脩小学校でグリフィスの愛弟子・今立吐酔（いまだてとすい）に英語を学ぶ。明治7年（1874）、武生を離れ東京に遊学し、明治19年（1886）、帝国大学文科大学（専科・哲学科）を卒業。在学中、フェノロサの講義録（英文）を残している。

卒業後は、東京の第一高等中学校の教師を務める傍ら、哲学会会員として講義や論文を寄稿するなど、日本の新しい教育分野に光を当てた。また、明治22年

（1889）、旧福井藩主・松平春嶽の孫・康莊（やすたか）の英国留学の監督役として渡英、自らもオックスフォード大学マンズフィールド・カレッジに学ぶ。帰国後は、熊本第五高等学校の教頭として赴任し、同校で英語教授を務めた夏目金之助（漱石）と同席、文部省の高等学校教授海外留学生に漱石を推薦したとされる。その後も、山口高等学校長、学習院教授・女子部長、宮中顧問官を歴任し、日本の近代教育に尽くした。大正14年（1925）、東京で逝去。66歳。

日時

平成30年 **6月9日（土）** 午後2時～3時30分

講師

齊藤隆氏（郷土史研究家・越前市史編さん委員）

1951年生まれ。1973年武生市に奉職（～2011）。郷土の人物を中心とした歴史資料の調査研究を行う。著書等『越前（武生）近代人物関係史料の研究』（横浜市大叢書第66巻人文科学系列第2号 2015）共著。明治大学・福井県連携講座「東京府で活躍した福井人“明治国家のプランナー 渡邊洪基”」講師 2016。武生商工会議所報JP「郷土の先覚」連載（2013.10～2015.12）等。武生郷友会、武生立葵会員。

会場

越前市中央図書館・学習支援室
（越前市高瀬2丁目7-24 TEL22-0354）

定員

80名 / 要申込

※越前市中央図書館（TEL22-0354）までお申し込みください。

主催

越前市立図書館



駐車場の混雑が予想されます。公共交通機関をご利用ください。